

フラッグフットボールの競技特性と、その指導が指導者に与える影響についての考察

A study of game characteristics of flag football and influences of coaching flag football on the coaches

1K10C188-1 齋藤 瑛人

主査 中村好男 先生

副査 塩田琴美 先生

【目的】

フラッグフットボールは、2008 年より改訂され、2009 年より移行が開始された学習指導要領において採用され始めた。フラッグフットボールは様々な理由により教育的価値が高いとされている。しかしフラッグフットボールでは競技特性が指導者及び選手に与える影響についてまだ研究されていない。

本研究は、教育に有用であると言われるフラッグフットボールの競技特性を再定義し、その指導が指導者にどのような影響を与えるかを調べ、フラッグフットボールとその指導の普及を目指すための一提案を行うものである。

【方法】

2013 年 12 月 1 日に日本体育大学深沢グラウンドにて開催された、日本フラッグフットボール協会主催 NFL FLAG 小学生の部・中学生の部、また一般の部において、参加チームの各コーチの方々男性 15 名(大学生または社会人)にアンケートを依頼した。

調査方法としては印刷したアンケート用紙への記入という形式にて行った。質問 6・7 は主観による数値の選択、質問 9・11・14 は、はい/いいえから選択、その他は自由記述にて行ってもらった。これを基に、数値による回答項目は数値を結果として出し、自由回答による回答項目は各回答から導き出される共通点をもとに考察を行った。

【結果】

有効回答全 15 枚のうち、全員の平均年齢は 42 歳、大学生一人(18 歳)を除く 14 名の平均年齢は 44 歳であった。そのうち、自身もプレイしていた経験を持つ人が 6 人であり、フラッグフットボールの指導経験は最短で 9 ヶ月、最長で 10 年、平均で 6 年であった。指導対象者の年齢は 6 歳～12 歳という回答が 6 人で最も多く、その他は 5 歳から 15 歳までと未就学児童から中学生の年代に限られた。自身がフラッグフットボールをプレイする事、指導を行う事は楽しいかという質問には多くの回答が「最も楽しい」というものであった。指導において心がけていることは、挨拶や礼儀などという回答が最も多かった。指導において困った経験については、理解力の差がある

ことという回答が最も多かった。また、困った事についての対策も回答してもらった。指導経験において工夫した経験は、練習内容、指導方法、試合時の戦術についての回答の大きく 3 種類に分かれた。競技特性については、戦術性についてと、数多くの要素に基づいた選手起用が可能である事という、大きく 2 種類の回答が得られた。コーチングに対する考え方の変化という項目では、物事に対する考え方や、人との接し方などが変わった、選手や指導から学ぶ事があったという回答が得られた。

【考察】

各項目の分析の末、フラッグフットボールに特有である要素を抽出し、それについて言及していった。特に興味深かったのが、フラッグフットボールの競技特性についての項目と、フラッグフットボールの指導が指導者にどのような影響を与えるかという項目である。前者は、作戦会議がある事や戦略性、事前準備や相手チームの研究など、フラッグフットボールが戦術を重視するスポーツであるという事を示唆するものや、全員が試合に出場できる条件という項目が挙げられる。後者からは、指導者自身が、フラッグフットボールの指導を行いながら、単にスポーツの指導を行うだけではなく、そこから自身の気づきや、指導において大切な事、また(主観であるが)人生において大切な事の学びを得ていると感じている事が分かる。

【結論】

フラッグフットボールの競技特性は「基礎知識や分析結果を基に作戦・戦術を立て、それを実行する事」「作戦を実行するために、各選手ならびに指導者の共通理解と相互のコミュニケーションが必要である事」「各選手の特徴にあった幅広いポジションが存在する事」であること、またフラッグフットボールの指導が指導者に与える影響は、「自らも新たな気づきを得られる事」、「人生において大切な事の学びを得られる事」であることが明らかになった。これらの結論は、フラッグフットボールを行う事が選手、子どもにとって有意義であり、また選手のみならず指導者自身にとっても有意義な影響があることを示すため、この結論を今後のフラッグフットボールの普及に生かす事が出来るであろう。